

# 第69回 定時株主総会

平成28年6月28日

 丸文株式会社



# 事業の概況

 丸文株式会社



## 事業の概況

# エレクトロニクス業界



自動車向け

データセンター用サーバー



需要増加



スマートフォン



高機能製品  
減速



デジタルカメラ

テレビ

パソコン



需要低迷

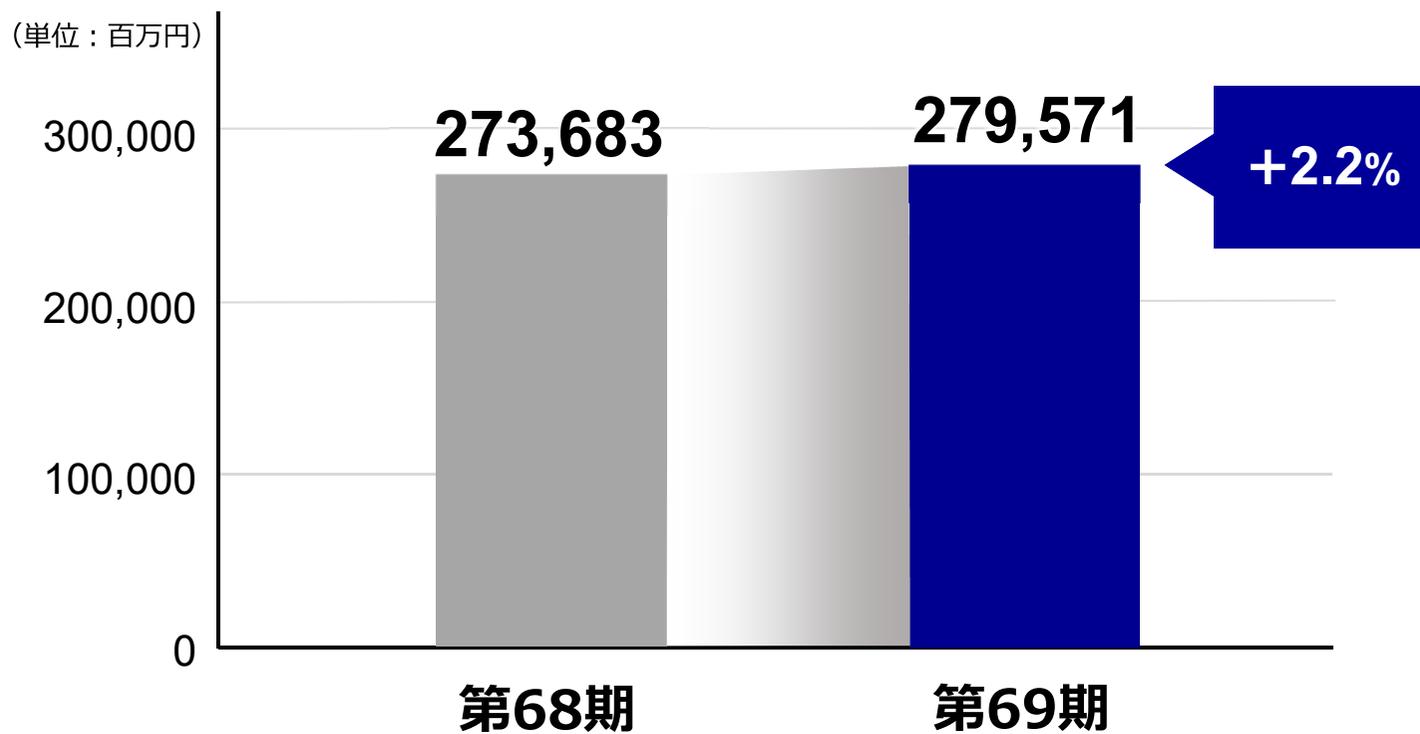


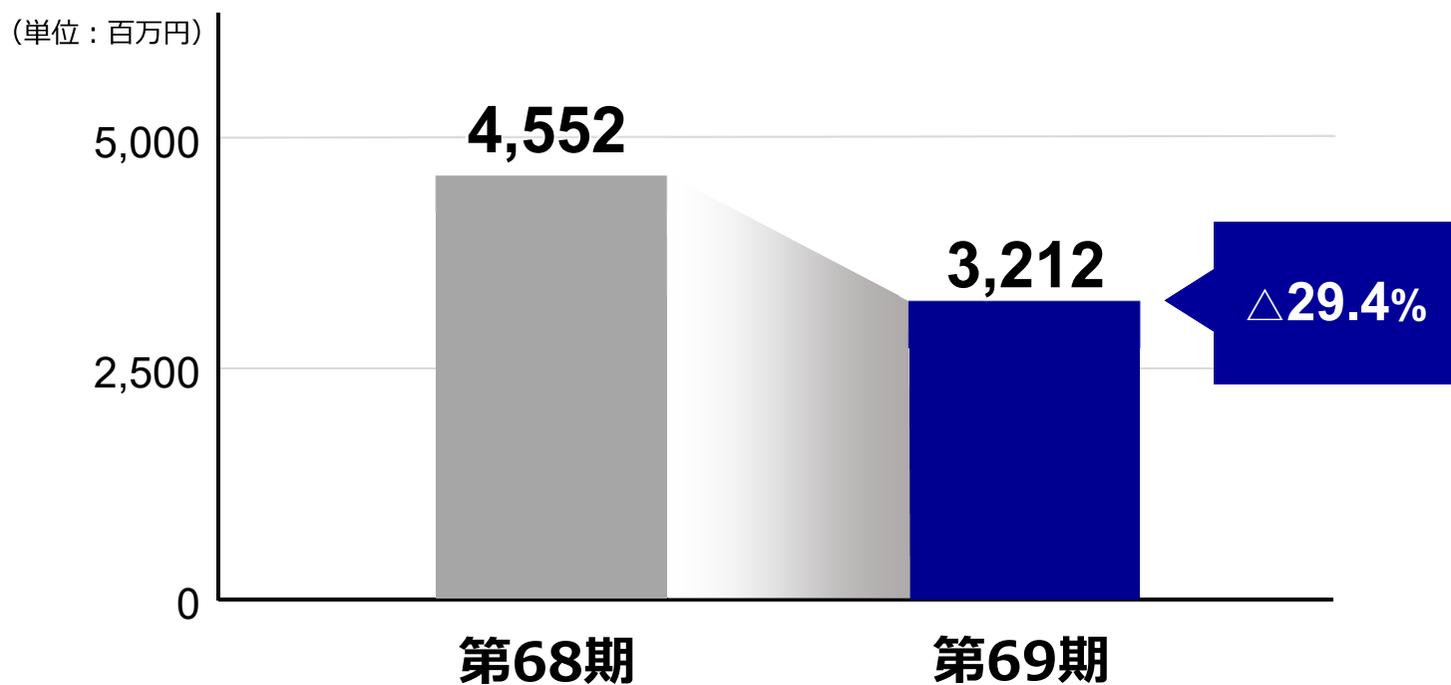
産業機器

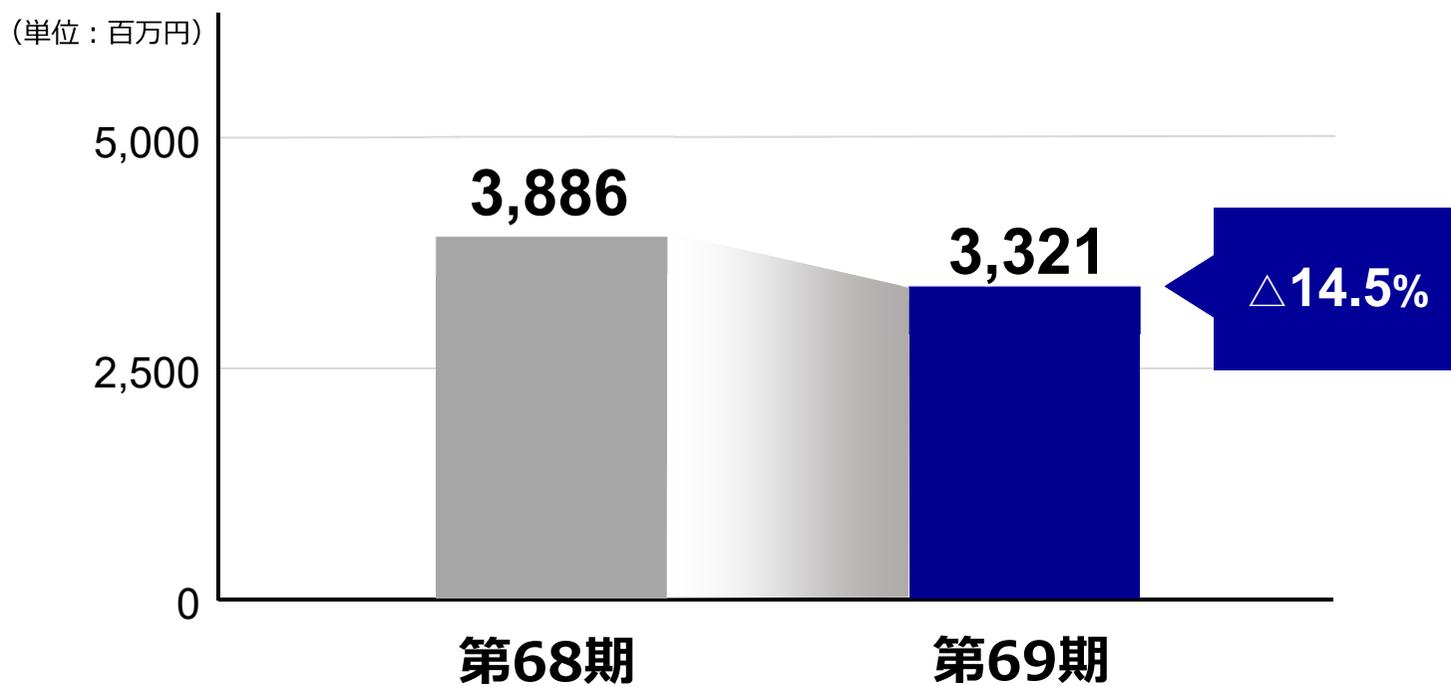
半導体製造装置



低調に推移

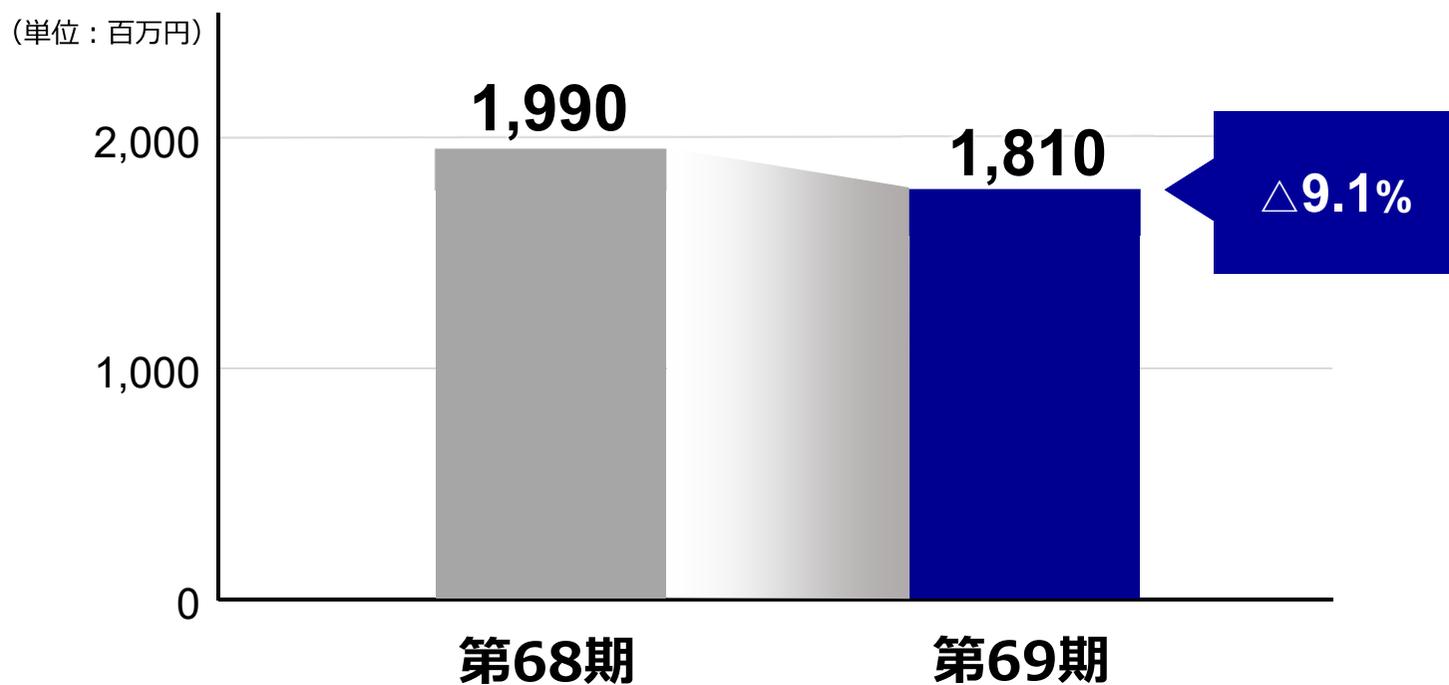






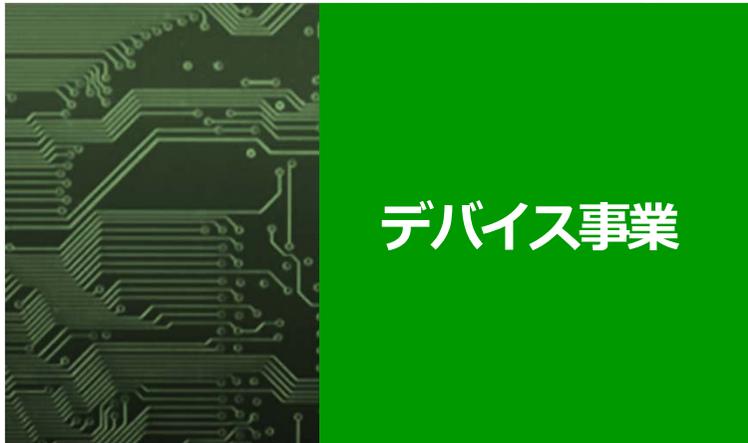
## 連結業績

# 親会社株主に帰属する当期純利益



# 事業別セグメントの業績

---



# デバイス事業

デバイス事業



↑  
伸長



↓  
低調



↑  
通期では増収

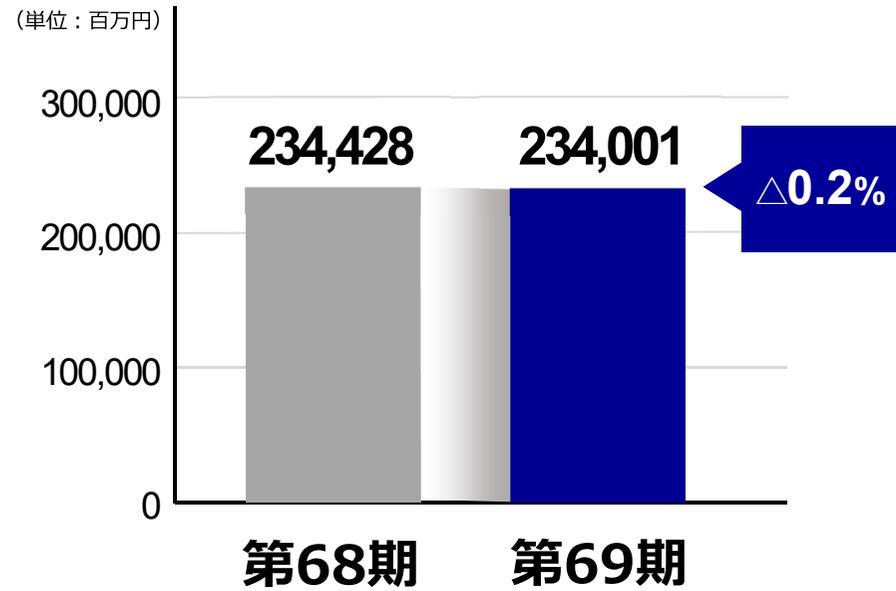


↓  
需要減退

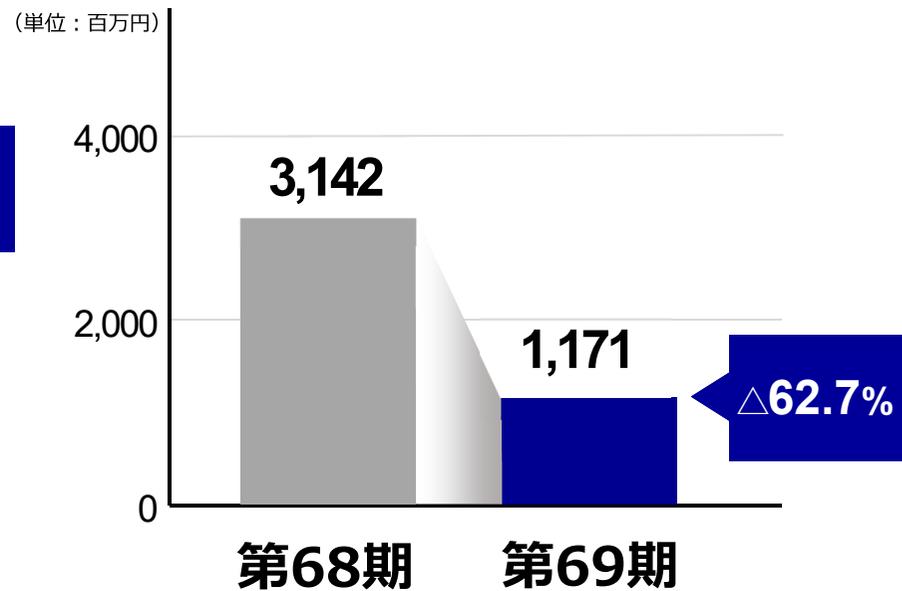
# デバイス事業



## 売上高



## セグメント利益



# システム事業

システム事業



試験計測機器

科学機器



減少



画像診断装置

持分法適用関連会社を  
連結子会社化



売上増加



人工衛星用部品



好調に推移



微細加工装置

ネットワーク関連機器

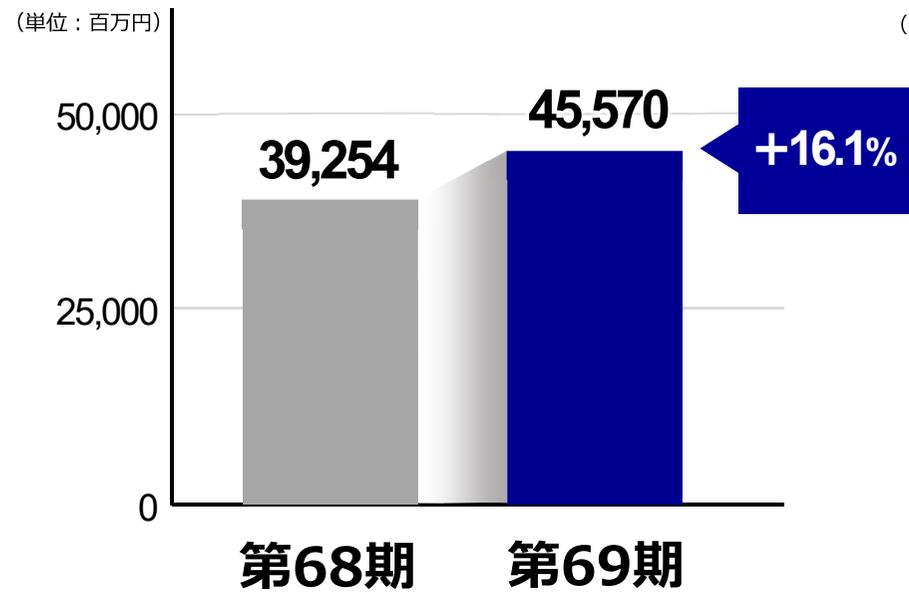


好調に推移

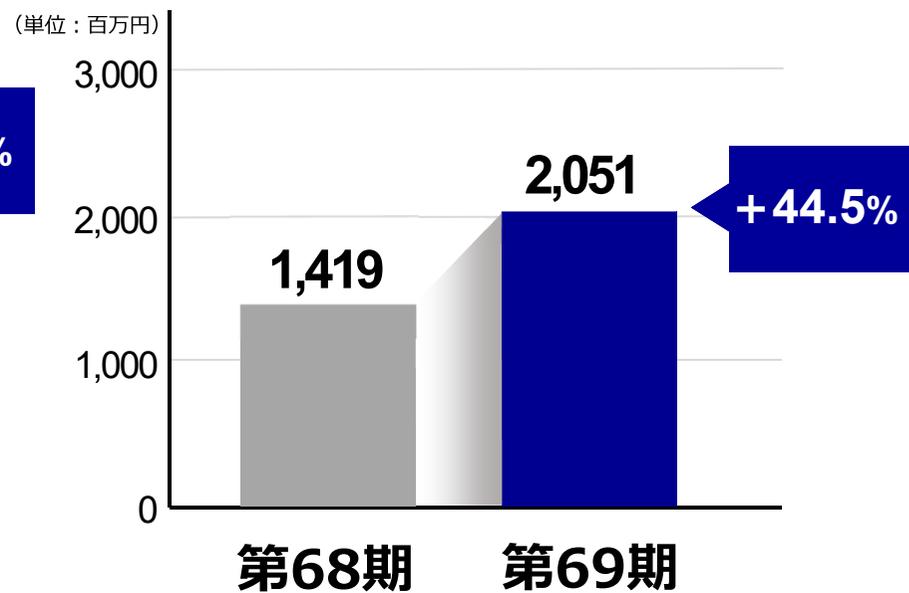
# システム事業



## 売上高



## セグメント利益



# 連結貸借対照表

 丸文株式会社



## 連結貸借対照表

# 資産の部

資産の部

負債の部

純資産の部

(単位：百万円)

	前期	当期	前期比
流動資産	117,084	96,211	△ 20,873
固定資産	11,228	10,302	△ 926
資産合計	128,313	106,513	△ 21,799

## 連結貸借対照表

# 負債の部

資産の部

負債の部

純資産の部

(単位：百万円)

	前期	当期	前期比
流動負債	72,594	49,481	△ 23,113
固定負債	9,416	10,693	+ 1,277
負債合計	82,010	60,175	△ 21,835

## 連結貸借対照表

## 純資産の部

資産の部

負債の部

純資産の部

(単位：百万円)

	前期	当期	前期比
株主資本合計	38,068	39,225	+ 1,157
純資産合計	46,302	46,338	+ 35
負債純資産合計	128,313	106,513	△ 21,799

# 連結株主資本等変動計算書（要旨）

## 利益剰余金合計

（単位：百万円）

第68期末残高	27,131
剰余金の配当	△ 653
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,810
連結会計年度中の 変動額合計	1,156
第69期末残高	28,287

第68期 期末配当：1株13円  
第69期 中間配当：1株12円

# 単体計算書類の概要

 丸文株式会社



## 貸借対照表

## 資産の部

資産の部

負債の部

純資産の部

(単位：百万円)

	前期	当期	前期比
流動資産	67,033	52,226	△ 14,807
固定資産	10,253	8,909	△ 1,344
資産合計	77,287	61,135	△ 16,152

## 貸借対照表

## 負債の部

資産の部

負債の部

純資産の部

(単位：百万円)

	前期	当期	前期比
流動負債	39,129	22,589	△ 16,540
固定負債	9,086	9,623	+ 537
負債合計	48,216	32,213	△ 16,003

## 貸借対照表

## 純資産の部

資産の部

負債の部

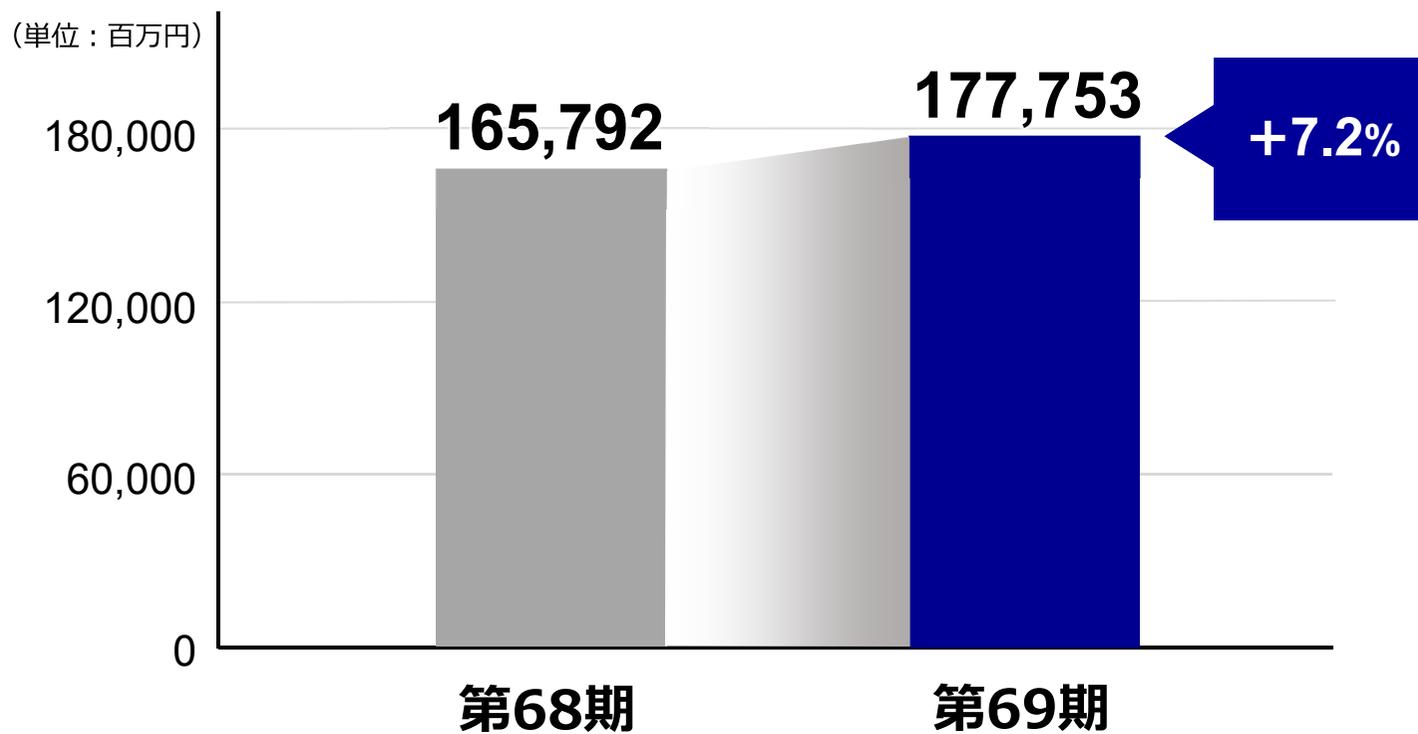
純資産の部

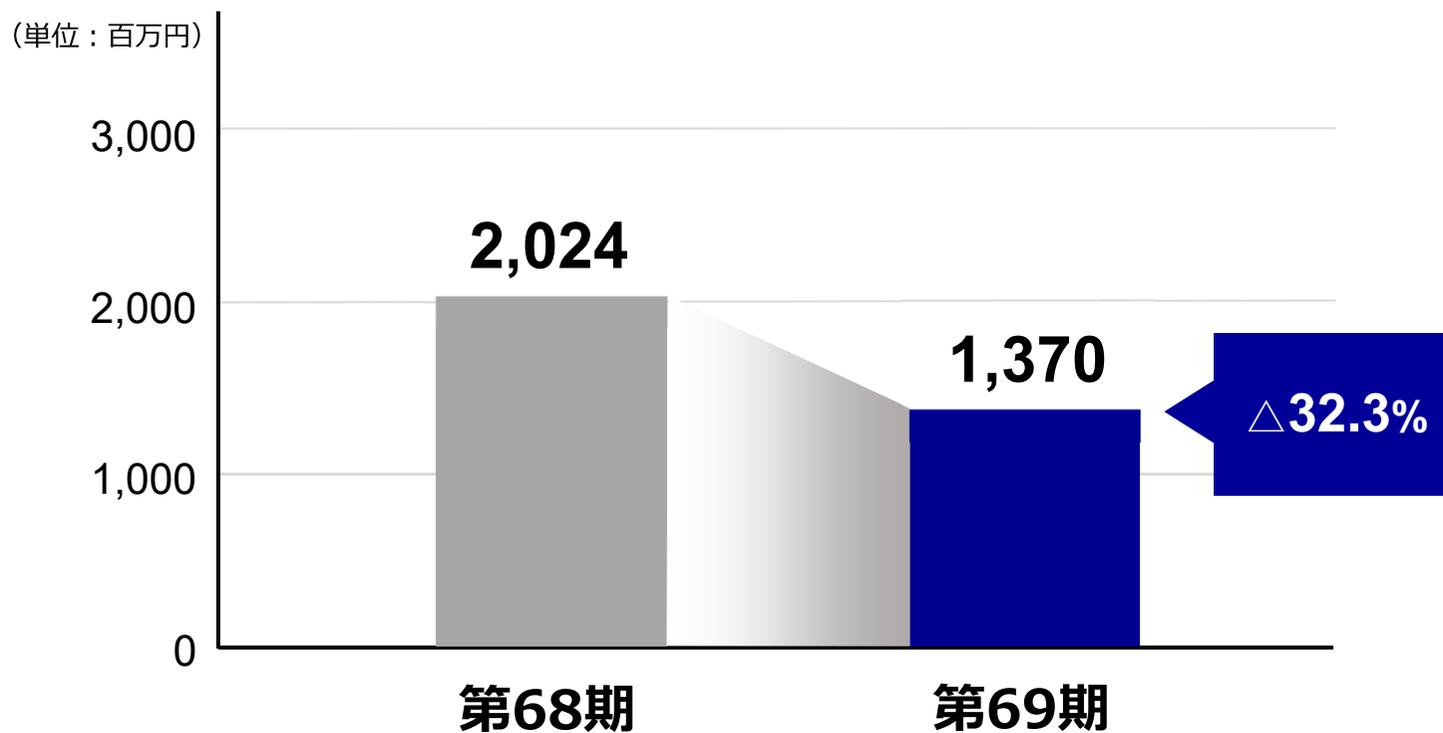
(単位：百万円)

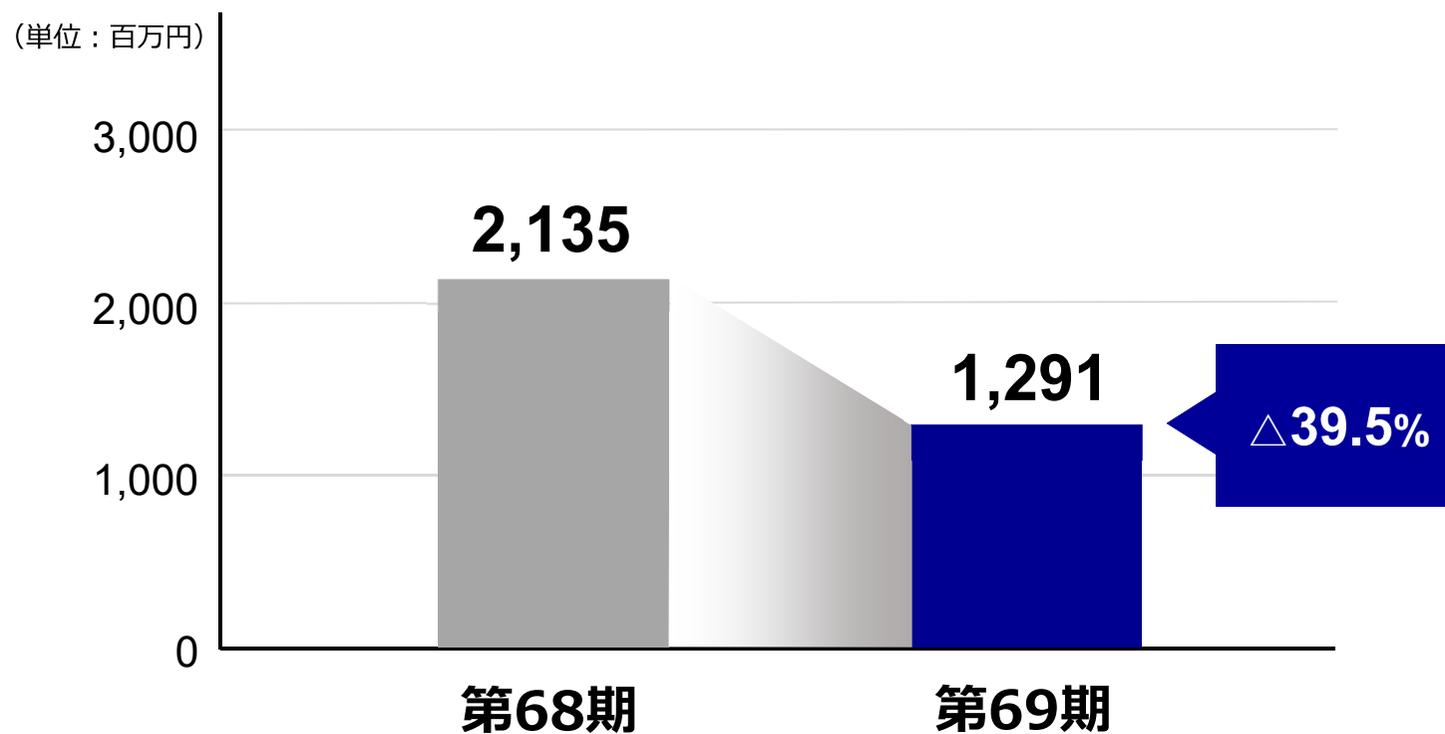
	前期	当期	前期比
株主資本合計	28,406	28,643	+ 237
純資産合計	29,070	28,922	△ 148
負債純資産合計	77,287	61,135	△ 16,152

## 業績

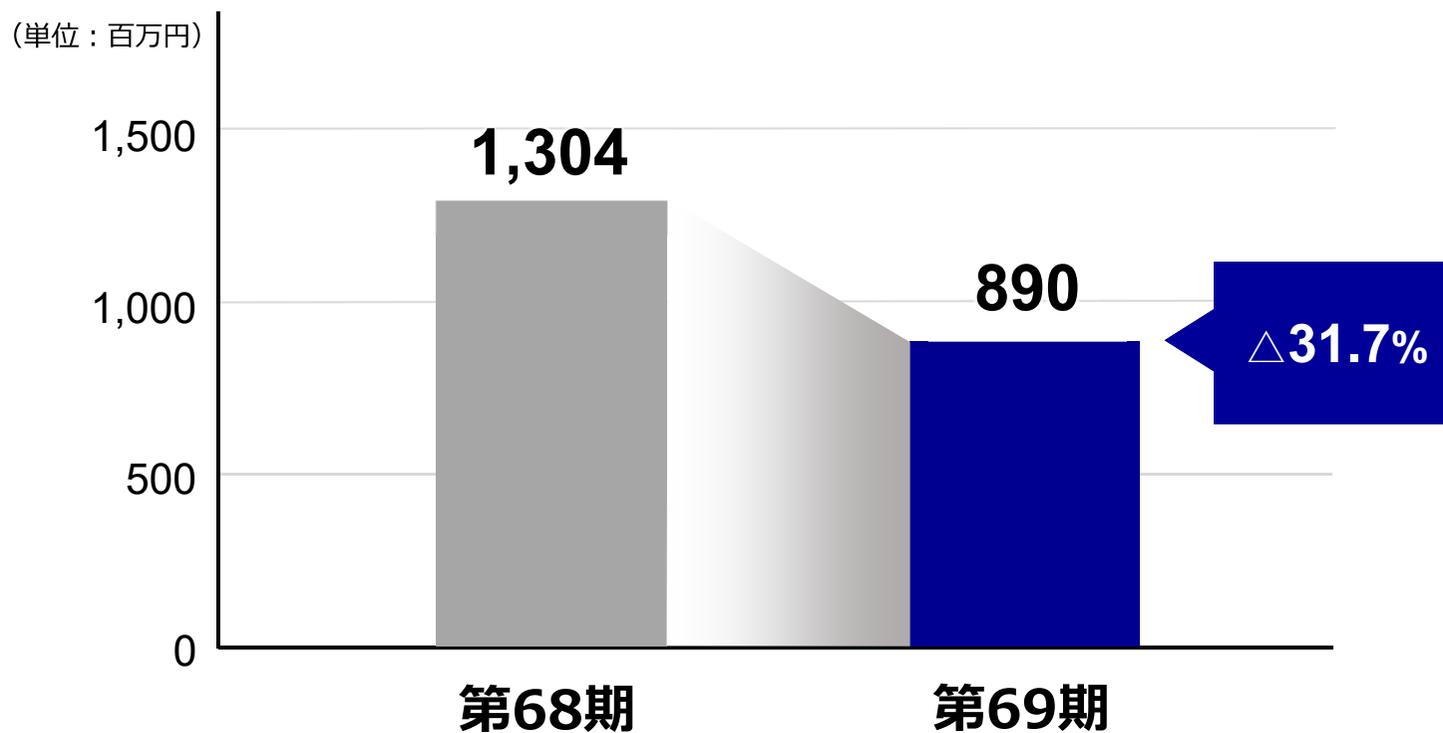
## 売上高







# 当期純利益



# 株主資本等変動計算書（要旨）

## 利益剰余金合計

（単位：百万円）

第68期末残高	17,468
剰余金の配当	△ 653
当期純利益	890
連結会計年度中の 変動額合計	237
第69期末残高	17,706

第68期 期末配当：1株13円  
第69期 中間配当：1株12円

# 対処すべき課題

 丸文株式会社



対処すべき課題

## エレクトロニクス業界

半導体メーカー

大規模な買収・合併

国内電子機器メーカー

事業再編が加速

エレクトロニクス商社

経営統合が進展

大きな変革期

対処すべき課題

# エレクトロニクス業界



IoTをはじめとした  
複合技術の深化



先進運転支援システム(ADAS)  
を搭載した自動車の普及



自動運転に向けた  
研究開発の進展



従来にはなかった市場

**対処すべき課題**

## **当社の取り組み**

**持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現**

**MARUBUN CORPORATION**

## ① ベースビジネスの強化

キーデバイス毎の  
販売体制を強化

アナログ

ワイヤレス

マイクロプロセッサ

ソリューションレベル  
での提案力の強化

周辺デバイス

ソフトウェア

サポート力の強化

エンジニアの育成

技術の高度化

顧客シェアのさらなる向上

持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現

## ② 新規商材の早期事業化

- 斬新でユニークな技術をもつ商材の発掘
- 資金や人材の投入で、サプライヤを支援・育成
- 新規商材事業化の専門組織を設置

プレマーケティング

販売

アフターフォロー

一貫したサポートによる早期事業化

持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現

## ③ 成長市場での事業強化



- 設計・開発期間の短縮
- 付加価値向上につながる商材の提案
- 独自のソリューションの提供

他社との差別化、プレゼンスの向上

持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現

## ④ グローバル展開の加速

50拠点を超える販売ネットワーク

アロー・エレクトロニクス社との提携

グローバルな事業の拡大

持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現

## ⑤ エンジニアリングサービスの拡充

保守・メンテナンス機能

装置のカスタマイズ化

システムインテグレーションサービス

付加価値の向上

対処すべき課題

## 当社の取り組み

企業価値の一層の向上

当社独自の差別化を積極展開

コーポレート・ガバナンス体制の強化

# 第69回 定時株主総会

平成28年6月28日

 丸文株式会社

